

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21 年 3 月 18 日

【評価実施概要】

事業所番号	2170103705		
法人名	有限会社 ウインドワード		
事業所名	グループホーム ひなたぼっこ		
所在地	岐阜市梅林南町12番地 メゾンK1F (電話) 058-240-5895		
評価機関名	NPO法人ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成21年3月18日	評価確定日	平成21年4月13日

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

街中のマンションの1階部分を一部改修したホームであるが、道路を挟んで向かいには梅林公園があり、近くのスーパーに歩いて買い物にも行け、グループホームとしては極めて立地の良い場所にある。しかし、現在の利用者は医療度の高い人が多く、終末期の人もある。病院勤務の経験のある職員が多く、適切に手厚く介護しているが、本来のグループホームの姿とはやや隔たりを感じる。重度利用者の家族は、窓から庭を眺めて四季を感じられ、家庭的なホームで暮らせる事に安心と感謝の気持ちを持っている。代表者はこの様なグループホームの必要性を感じながらも、本来のグループホームとしての新規開設も念頭に、職員と共に努力している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）
	前回の改善課題であった家族への報告については、毎月の請求書に近況報告を入れて家族に送り、安心に繋げている。評価結果の活用は、職員が日常目付きやすい所に掲示し、共有している。
重点項目①	今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）
	今回の自己評価は、全職員が分担し記入したものを管理者がまとめている。個々の職員の思いを把握し、ホームとしてより質の高いケアの提供に努力している。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4, 5, 6）
	前回から運営推進会議の出席者に変化はないが、会議で出された家族への報告については、即実行に移し、良い結果となっている。その後も、文章だけでなく写真を付けてはどうかの意見やボランティアの導入等いろいろな提案を今後の検討課題として受け止めている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7, 8）
	身寄りのない人や世代交代で家族との関係が薄くなっている人が多く、家族の訪問も少ない。重介護の利用者家族は、ホームで見てもらえるだけで十分という思いが強く、意見や要望はなく、感謝の言葉だけである。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）
	町内会に加入し、地域との連携を深めようと町内行事、清掃活動、また、町内に不幸があった場合も職員や管理者（代表者）が必ず出席し、努力しているが、町内役員との運営推進会議への参加は市の協力があっても今だ得られていない。

【情報提供票より】（平成 21 年 3 月 1 日 事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	平成 17 年 6 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	7 人
職員数	8 人	常勤	6 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 5.6 人

（2）建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	4 階建ての	1 階部分	

（3）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	20,000～25,000 円	その他の経費（月額）	12,000～ 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (100,000円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,100 円	

（4）利用者の概要（平成 21 年 3 月 1 日 現在）

利用者人数	6 名	男性	0 名	女性	6 名	
要介護1	0 名	要介護2	1 名			
要介護3	1 名	要介護4	0 名			
要介護5	4 名	要支援2	0 名			
年齢	平均	81.1 歳	最低	74 歳	最高	89 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	小笠原内科、千手堂病院、村上記念病院
---------	--------------------

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域に住む独り暮らしの高齢者が認知症となり、終の棲家としてホームを選択している。住み慣れた地域で住み続けることの良さを「老いを笑うな、いずれ私も通る道」と暖かな理念に込め、掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	地域には、独り暮らしや日中独居の高齢者も多く、町内の民生委員と連携し、気軽にホームを訪れてもらう等、地域の中にあるホームをめざした実践に努力している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームと同じマンションの2階から上の入居者とは生活リズムの違いも合って交流は無い。町内会に加入し、町内清掃や町内行事、また、町内住民の葬儀への参列などにホーム職員・代表者は必ず出席し、町内住民との交流に努力している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価での改善課題にも前向きに取り組む、実行に移している。今回の自己評価は、職員それぞれに分担し、全体を管理者がまとめた。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市関係者、包括支援センター、地区民生委員、町内民生委員の参加を得て、定期的に会議が行われており、ボランティアの導入や家族への現状報告に写真を付けてはどうかなど、具体的な意見が出されている。	○	現在までに町内会長の会議への参加は得られていないが、年度ごとに役員の交代があるため、ホームへの理解と協力が得られるよう働きかけを継続されたい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当窓口へは毎週のように管理者は足を運び、生活保護の人の報告や連絡、また、利用者の現状報告やホームとしての悩み、対応など些細なことも相談している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	前回評価の改善課題を受け、毎月の請求書の中に個々の利用者の現状報告の手紙を入れ、全家族に送付しているが、この報告で安心するのか、かえって家族の面会が少なくなった。	○	現状報告の手紙が家族の安心につながる良い結果ではあるが、その反面、面会が少なくなることは利用者にとっては寂しいことで、利用者の思いが伝わるような工夫に期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族のいない人、世代交代で家族との関係が薄くなっている人が多く、家族の訪問は少ない。来訪した家族からは話を聞くよう努めているが、重介護の利用者が多いため、感謝の言葉が聞かれるだけである。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の高齢による交代はあるが、数は少ない。管理者の家族の協力もあり、緊急時や行事などの対応も職員同士で調整し、柔軟に、無理のない、馴染みの職員による体制を組む等配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度は管理者研修に中堅職員の受講を予定している。職員の多くは病院での介護経験者であるが、高齢であるため研修受講には至っていない。	○	経験による学び合いを大切にしつつ、外部研修にも参加し、伝達講習により共有を図り、質の向上に努められたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岐阜県グループホーム協議会に加入し、交流はある。研修や会議には職員の参加も募っており、努力している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族の話を良く聞き、生活歴や性格を詳しく把握している。医療機関からの入居に関しては、身体面での注意事項などを聞き取り、スムーズにサービスが開始できるよう努力している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	発言さえも少ない重度の利用者が多いが、その中でも、ちょっとした会話やスキンシップでの反応や笑顔が職員のやり甲斐に繋がっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コーヒーが飲みたいなどの要望には喫茶店へ行くなどの行動に移している、思いを言葉にできない人に対しても体調や表情からくみ取り、適切な配慮が行われている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	医療機関からの利用者が多く、医療機関から情報提供を受け、計画を作成している。また、毎月行われるミーティングで個々の利用者について全職員で検討し、家族と相談の上、ケアマネジャーが作成している。	○	作成した介護計画に対しては、本人、家族の同意を取られたい。また、家族のいない人には、市の担当者と相談して対応されたい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは、定期的、または、必要時に家族や医師など関係者と話し合い、行われている。重度の利用者が多く、医療度の高い介護計画となっている。掻きむしりが激しい利用者があり、家族の理解を取り、食事以外はミトンをはめていた。	○	ミトンの利用は、身体的なダメージを回避するための対策ではあるが、症状の改善と排除に向けた取り組みにも努力されたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	現在、利用者に終末期の人がいる。高カロリー補液による栄養補給が行われ、在宅酸素を使用し、吸引も適時実施され、医療との連携が密であり、経験のある職員が多いことを活かした支援が行われている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	24時間対応できる協力医がいる。医療機関への受診は、基本的には家族に依頼しているが、緊急時や止むを得ない時は、タクシーを利用し職員が付き添っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	今までにも看取りの経験は5件あり、現在も終末期の利用者がいる。かかりつけ医、家族、職員で話し合っているが、書面や記録に残していない。	○	今後、看取り加算の導入もあり、方針や計画を医師、家族、職員が共有することを明確にするため、同意書等を記録として残されたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員全員が、とても丁寧な言葉掛けをしており、入浴や排泄の場面も徹底されていた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎月のケア会議で個々の利用者についての情報交換や職員間の連携を深め、より良いケアの提供に取り組んでいる。利用者の身体面での差が大きいホームであるが、個々のペースに沿った暮らしを支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	大きなテーブルで、楽しく会話しながら食事をしている場面があった。テーブルを拭いたり下膳を手伝う利用者、また、手の出ない人に対しても声掛けし、輪の中に入れるよう支援していた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、毎日、午後に行われている。利用者の体調をみて、入浴や清拭で毎日気持ちよく過ごせるよう配慮している。車椅子の人には浴槽への介助が困難なため、シャワー浴で対応している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	現在は出来なくなった利用者が多いが、出来る人は、掃除や新聞紙を折ってごみ袋を作るなど役割として行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	以前は日課の様に梅林公園を散歩したり、近所のスーパーに買物に行ったりしていたが、現在は限られた利用者のみで、天候や体調にあわせた外出となっている。天候をみて、向かいの梅林公園へ車椅子で散歩に出掛けている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関にはセンサーが設置されており、玄関は日中は開錠し、夜間は安全のため施錠している。裏口は外部の侵入の恐れもあり、常時、施錠している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時に重度者をどのように避難させるかが今後の課題である。運営推進会議で町内会長に働きかけたいと思っているが、会議への参加が得られていない。	○	町内の民生委員とは良い関係が築かれているため、災害時の協力を依頼し、周辺住民にホームへの理解、協力が得られることを期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の状態に合わせて、とろみ、刻み、ミキサー食など形状を変え、栄養摂取に努めている。病院の栄養士にカロリー計算のチェックを受けており、食事・水分摂取量も個々に把握している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節の花が飾られ、落ち着いた住まいである。居間から眺められる庭には家庭菜園があり、日々の成長が楽しみになっている。改造型のマンションであるが、掃除も行き届き清潔感があり、空気のおどみも感じられない。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の状態に合わせて、畳とフローリングの部屋がある。大きな箆笥や仏壇のある部屋やシンプルな部屋と様々であるが、多くの部屋からは庭が眺められ、四季を感じるができる。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。